

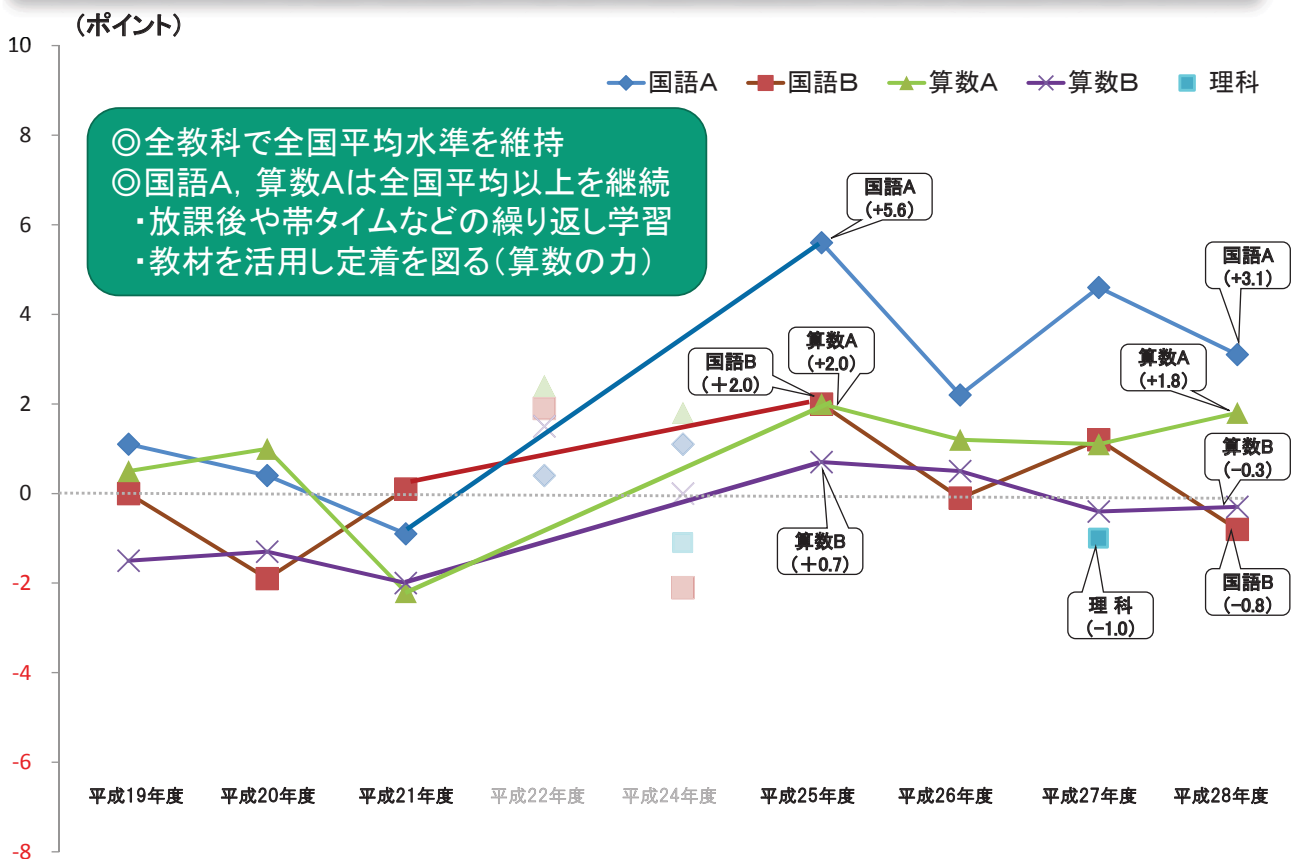
# 平成 28 年度 全国学力・学習状況調査結果概要

【 資料 】

# 全国学力・学習状況調査結果の概要

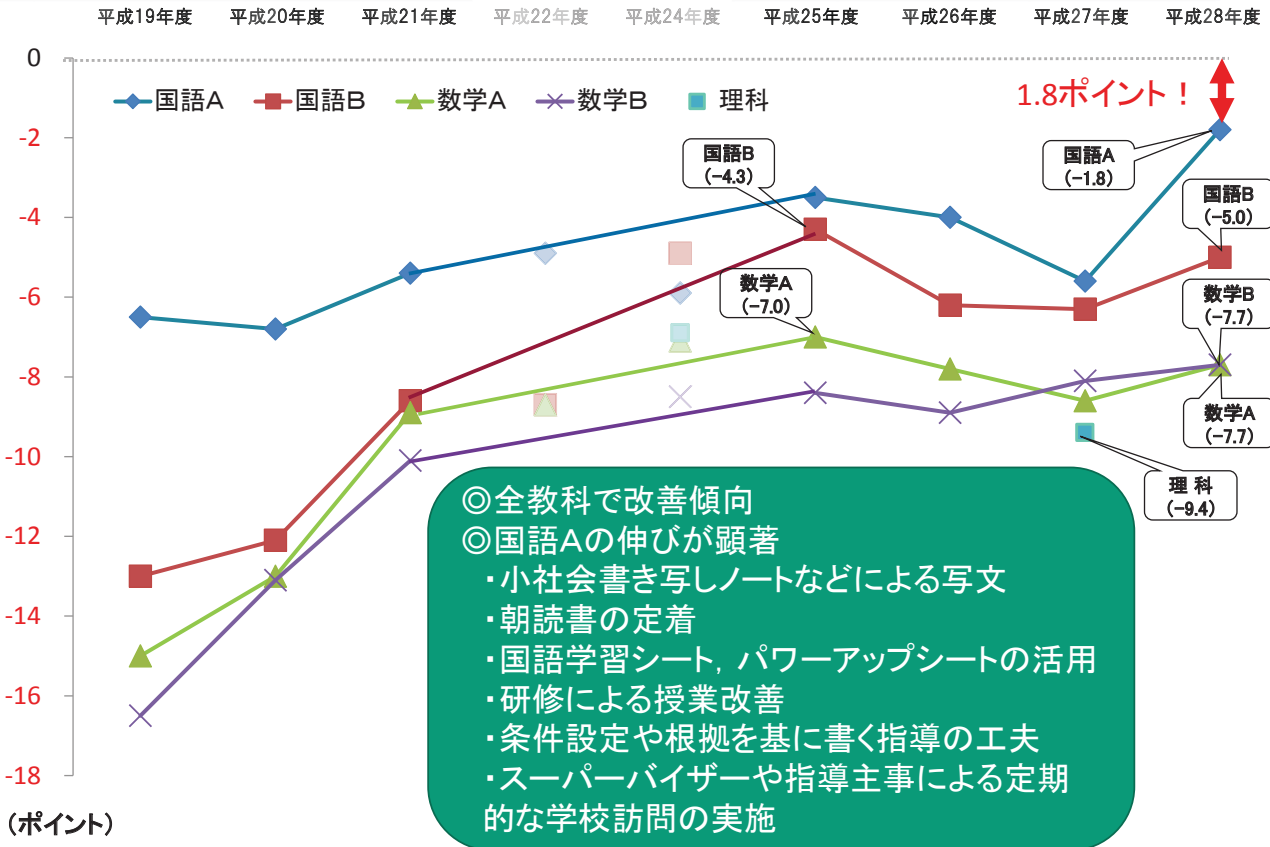
小学校第6学年		H27	H28			H27	H28
国語A	高知市 (全国平均±)	74.6 (+4.6)	76.0 (+3.1)	国語B	高知市 (全国平均±)	66.6 (+1.2)	57.0 (-0.8)
	高知県	73.4	77.2		高知県	67.0	57.7
	全国	70.0	72.9		全国	65.4	57.8
算数A	高知市 (全国平均±)	76.3 (+1.1)	79.4 (+1.8)	算数B	高知市 (全国平均±)	44.6 (-0.4)	46.9 (-0.3)
	高知県	77.0	80.4		高知県	44.6	47.3
	全国	75.2	77.6		全国	45.0	47.2
		H27	H28			H27	H28

## 平成19~28年度 全国平均との差の推移 (小学校第6学年)

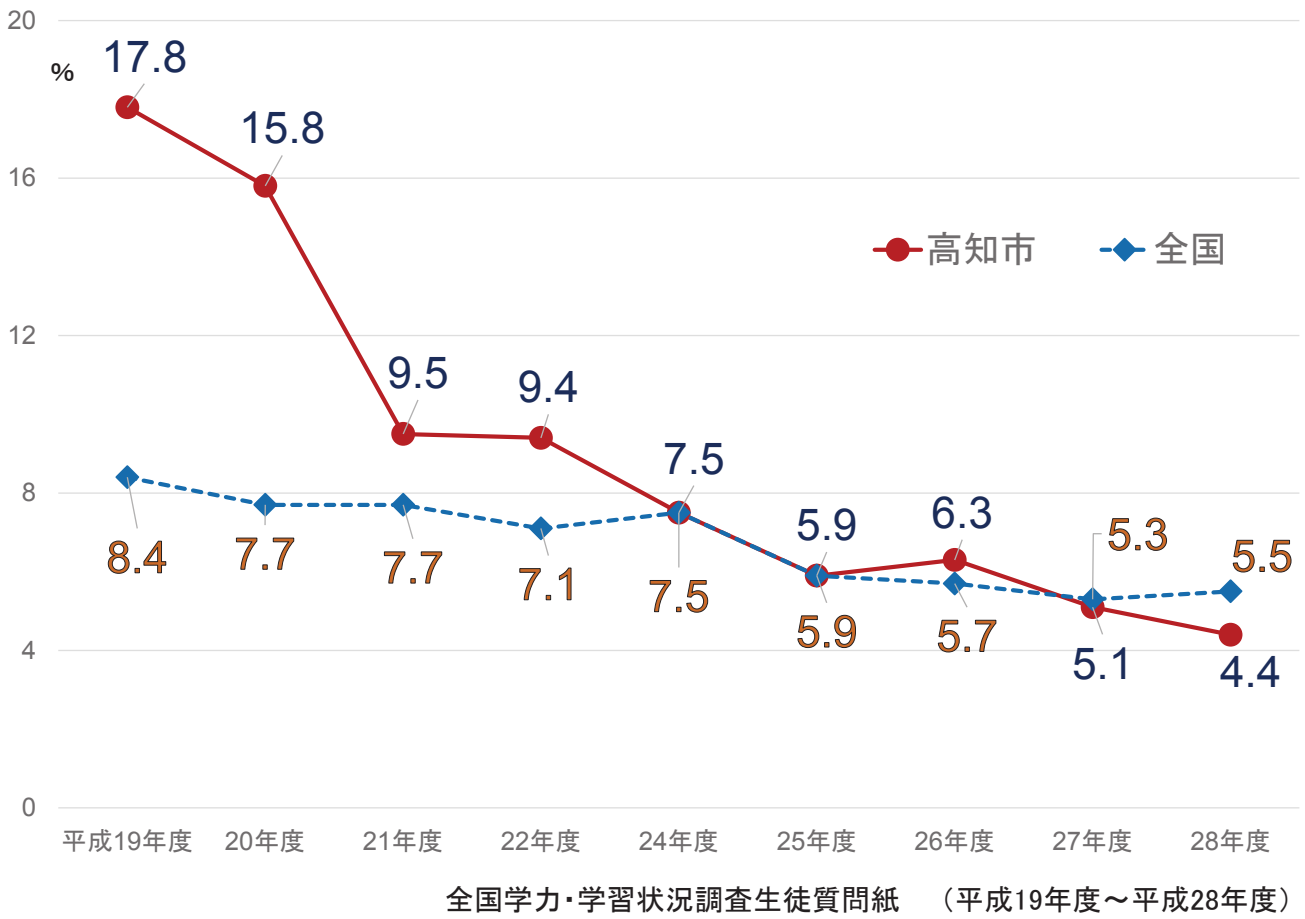


中学校第3学年		H27	H28	中学校第3学年		H27	H28
国語A	高知市 (全国平均±)	70.2 (-5.6)	73.8 (-1.8)	国語B	高知市 (全国平均±)	59.5 (-6.3)	61.5 (-5.0)
	高知県	73.3	75.4		高知県	62.9	65.2
	全国	75.8	75.6		全国	65.8	66.5
数学A	高知市 (全国平均±)	55.8 (-8.6)	54.5 (-7.7)	数学B	高知市 (全国平均±)	33.5 (-8.1)	36.4 (-7.7)
	高知県	59.9	58.5		高知県	36.2	40.1
	全国	64.4	62.2		全国	41.6	44.1
		H27	H28			H27	H28

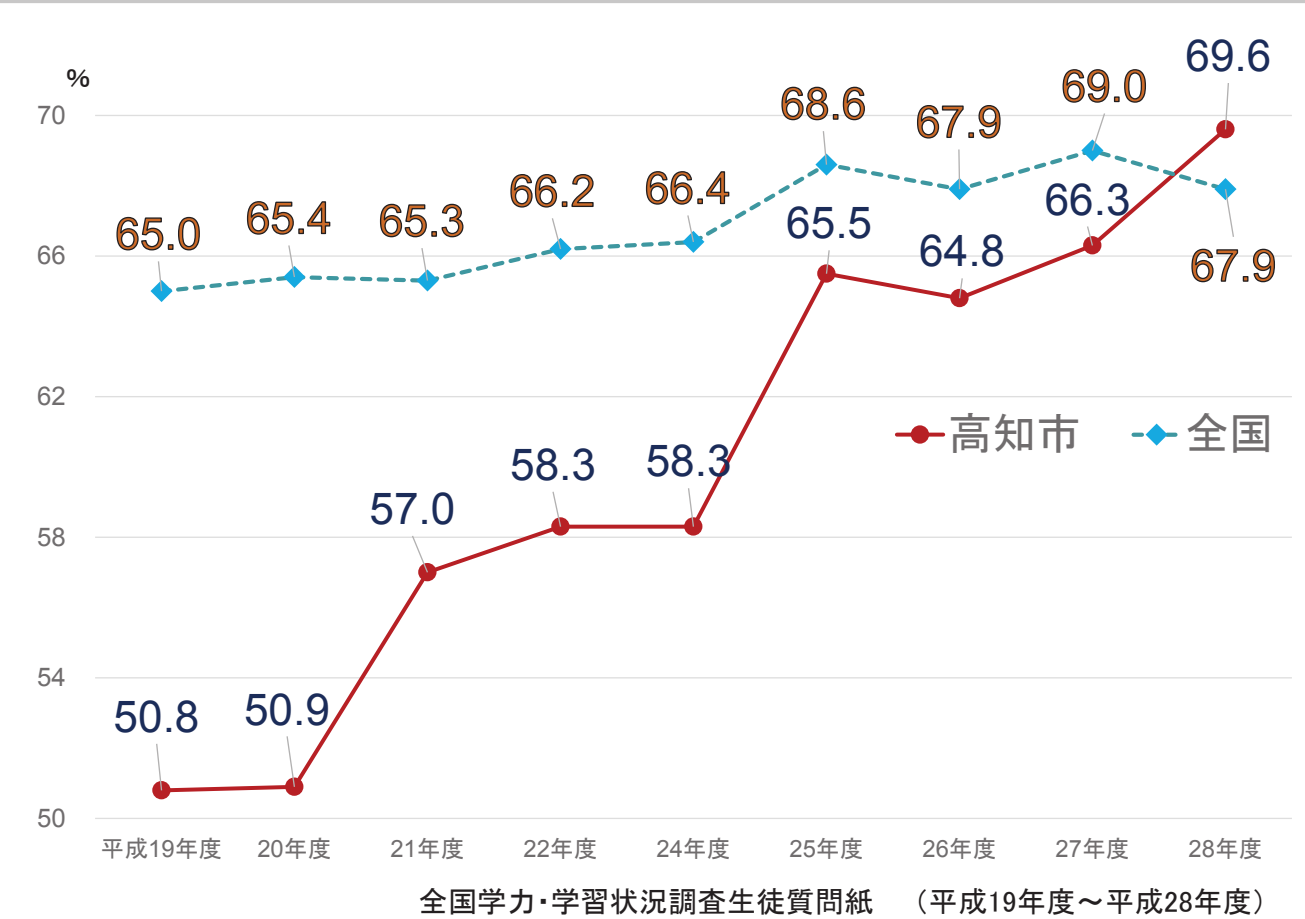
## 平成19～28年度 全国平均との差の推移（中学校第3学年）



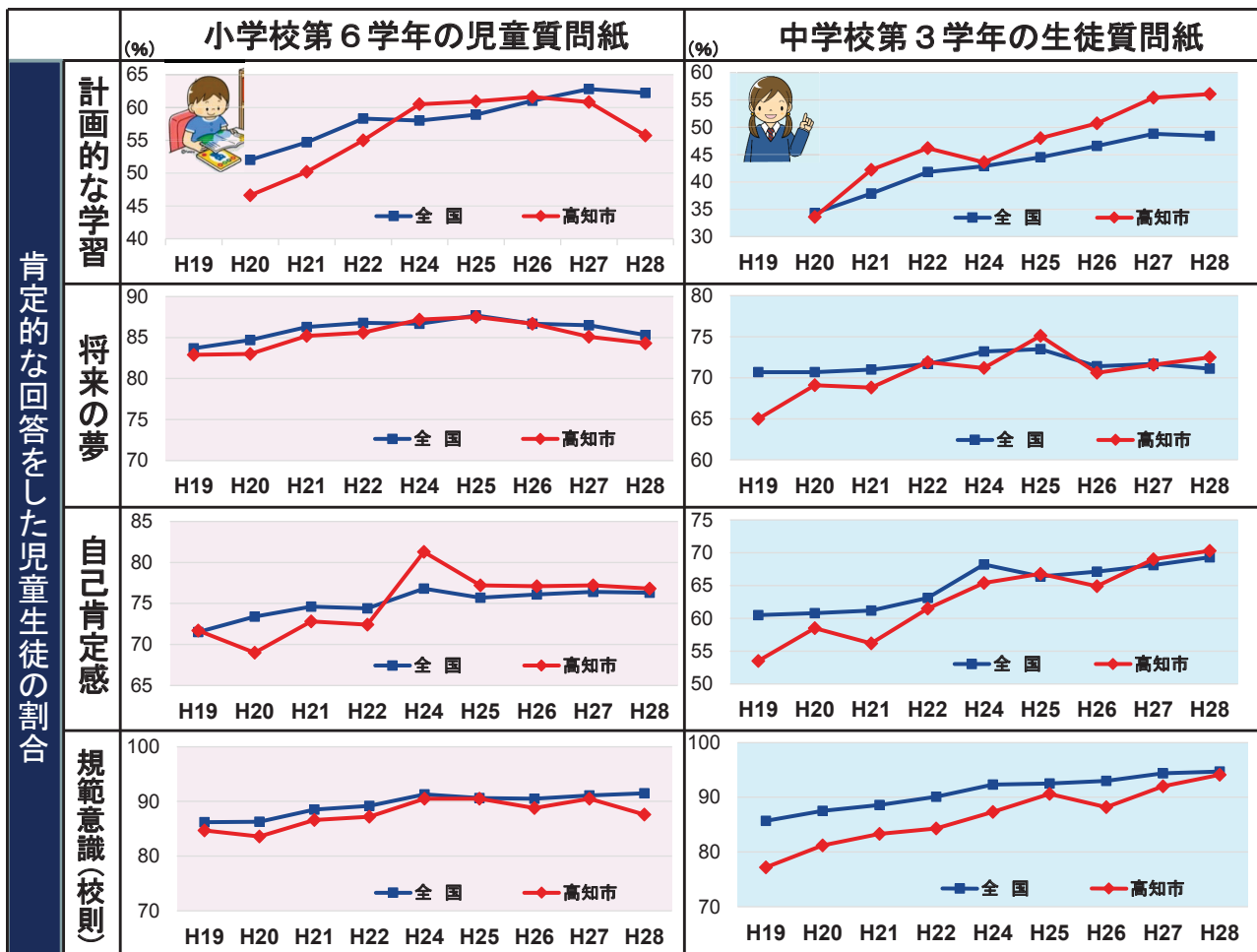
普段の日(月曜～金曜), 学校の授業以外全く勉強しない生徒(中学校第3学年)の割合【肯定的回答】



普段の日, 学校の授業以外で「1時間以上勉強している」生徒(中学校第3学年)の割合【肯定的回答】



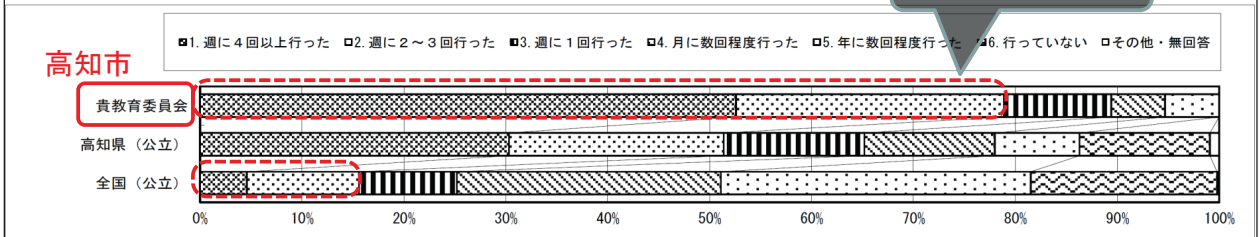




全国学力・学習状況調査 学校質問紙回答結果集計

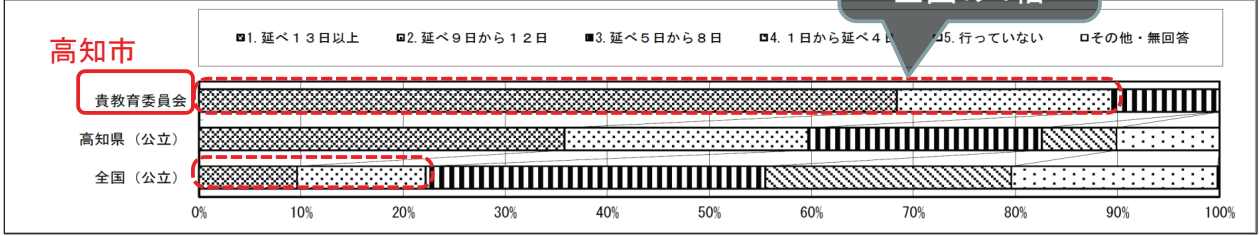
質問番号	質問事項									
(25)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、放課後を利用した補的な学習サポートを実施しましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
貴教育委員会	52.6	26.3	10.5	5.3	5.3	0.0				0.0
高知県(公立)	30.3	21.1	13.8	12.8	8.3	12.8				0.9
全国(公立)	4.6	11.0	9.6	25.9	30.4	18.3				0.2

全国の5倍



質問番号	質問事項									
(27)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、長期休業日を利用した補的な学習サポートを実施しましたか(実施した日数の累計)									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
貴教育委員会	68.4	21.1	10.5	0.0	0.0					0.0
高知県(公立)	35.8	23.9	22.9	7.3	10.1					0.0
全国(公立)	9.6	12.6	33.3	24.1	20.2					0.2

約9割の学校  
全国の4倍



# 学習指導要領改訂の方向性

文部科学省資料から

新しい時代に必要な資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる  
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、  
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「**カリキュラム・マネジメント**」の実現

何を学ぶか

どのように学ぶか

新しい時代に必要な資質・能力を踏まえた  
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

**学習内容の削減は行わない**※

主体的・対話的で深い学び（「**アクティブ・ラーニング**」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得  
など、新しい時代に求められる  
資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い  
理解を図るための学習過程  
の質的改善

主体的な学び  
対話的な学び  
深い学び

# 育成を目指す資質・能力の三つの柱

文部科学省資料から

学びに向かう力  
人間性等

どのように社会・世界と関わり、  
よりよい人生を送るか

「**確かな学力**」「**健やかな体**」「**豊かな心**」を  
総合的にとらえて**構造化**

何を理解しているか  
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる  
ことをどう使うか

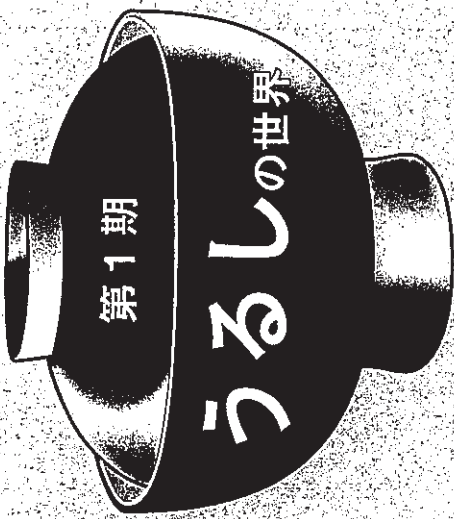
思考力・判断力・表現力等



1. 次の【博物館のちらし (表)】と【博物館のちらし (裏)】を読んで、わたの問いに答えなさい。

【博物館のちらし (表)】

## 暮らしの中の 伝統文化展



2016年 **5月21日** (土) - **6月19日** (日)

開館時間：午前9時30分～午後5時  
休館日：月曜日  
入館料：一般300円・大学生・高校生200円  
中学生以下無料

第2期：「和紙の世界」6月25日(土)～7月24日(日)  
第3期：「織物の世界」7月30日(土)～8月28日(日)

**草木市立博物館**  
〒900-9859 草木市南町7  
電話 000-123-xxxx  
<http://www.hakubutsukan.xx.jp>

【博物館のちらし (裏)】

「伝統文化」というと遠い存在のように感じられますが、実は今の暮らしの様々なところに息づいています。

「暮らしの中の伝統文化展」の第1期は、「うるしの世界」を取り上げます。私たちの暮らしの中にある漆のよさを実感してみませんか。

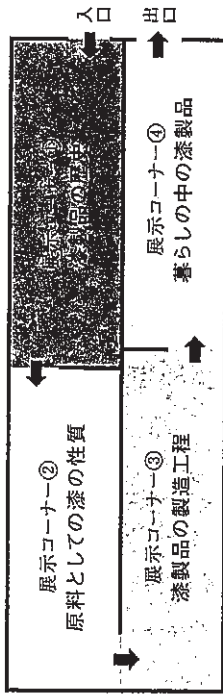
**うるしの世界**

おわんや重箱などに代表される漆製品は、優美なだけでなく、丈夫で長持ちする実用性の高さも兼ね備えており、私たちの暮らしの中で育まれてきたものです。

**展示内容 (1階展示室)**

展示コーナー②  
原料としての漆の性質

入口



出口

展示コーナー④  
暮らしの中の漆製品

**関連イベント**

～漆製品を使ってみよう～

漆の器とスプーンでアイスクリームを味わいます。また、使用後の手入れの仕方も体験できます。漆の器の美しさや手触りのよさなどを感じてみませんか。

日時：開催期間中の土曜日  
午後3時～午後4時  
場所：1階特別室  
定員：20名 (無料・当日受付)

～職人の技を見てみよう～

この道30年の職人による漆塗りの実演を見ることができ、交流する時間もありますので、伝統を受け継ぐ職人としての思いなどを直接聞いてみませんか。

日時：開催期間中の日曜日  
午前10時～午前11時  
場所：1階ホール  
定員：50名 (無料・当日受付)

中国 B - 2

中国 B - 1



以下の集計値は、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

高知市教育委員会	生徒数
	1,945

※本字かつ下線付きの箇所の類型が、正答を数す。

設問番号	設問の概要	1段目：教育委員会の生徒数の割合(%)									2段目：都道府県（公立）の生徒数の割合(%)									3段目：全国（公立）の生徒数の割合(%)									4段目：A中学校の生徒の割合(%)								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1三	ちらしの表と裏の表現の工夫とその効果を書く	62.0	0.1	23.4	0.1						67.7	0.2	22.5	0.1						68.0	0.1	22.5	0.1						87.8	0.0	11.0	0.0					

(正答の条件)  
 次の条件を満たして解答している。  
 ① 「表は、……、裏は、……、」という形で書いている。  
 ② 【博物館のちらし(表)】と【博物館のちらし(裏)】の表現の工夫と、その効果を具体的に書いている。  
 ③ 四十字以上、八十字以内で書いている。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
条件①、②、③を満たして解答しているもの	条件①、②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの	条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	条件②、③を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	条件①、②、③を満たさないで解答しているもの	上記以外の解答	無解答			

三

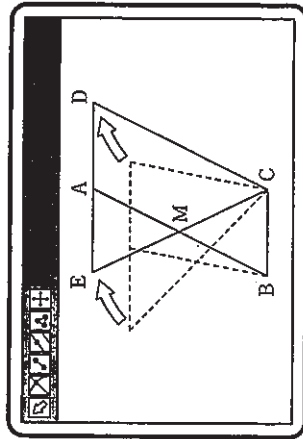
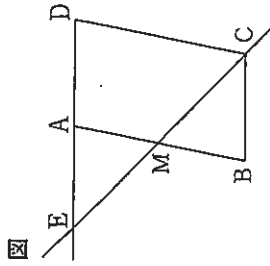
例	表は、	日付を大きく示していて、
	開催期間が把握しやすい。	裏は、
	「……ませんか」と呼びかける表	
	現を用いていて、	親しみがわきや
	すい。	

三 【博物館のちらし(表)】と【博物館のちらし(裏)】には、それぞれどのような表現の工夫がありますか。また、それらにはどのような効果があると思いますか。あなたの考えを、次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。

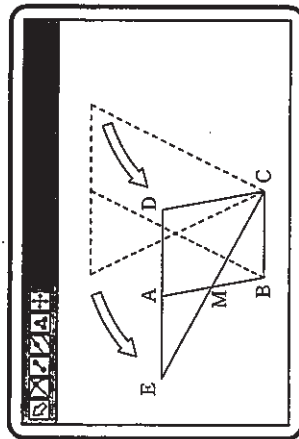
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 「表は、……。裏は、……。」という形で書くこと。  
 条件2 表現の工夫と、その効果を具体的に書くこと。  
 条件3 四十字以上、八十字以内で書くこと。

4 右の図のように、平行四辺形 ABCD の辺 AB の中点を M とし、辺 DA を延長した直線と直線 CM との交点を E とします。ここで、健一さんと琴音さんは、コンピュータを使って平行四辺形 ABCD をいろいろなる形の平行四辺形に変え、いつでも成り立ちそうなことについて調べてみました。



平行四辺形 ABCD を、縦にのばしながら、右に傾ける。



平行四辺形 ABCD を、縦に縮めながら、左に傾ける。



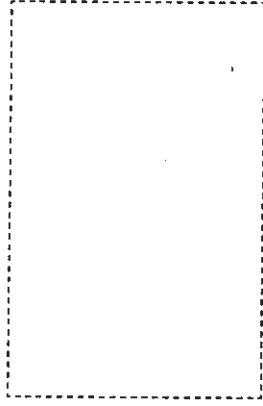
二人は、コンピュータの画面上で図形を観察し、平行四辺形 ABCD がどのような平行四辺形でも、 $AE = BC$  になると予想しました。

次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 二人の予想した  $AE = BC$  がいつでも成り立つことは、前ページの図において  $\triangle AME \cong \triangle BMC$  を示すことから証明できます。  $AE = BC$  となることの証明を完成しなさい。

証明

$\triangle AME$  と  $\triangle BMC$  において、



合同な図形の対応する辺は等しいから、

$$AE = BC$$

(2) 前ページの図について、 $DA : DC = 1 : 2$  ならば、 $\triangle DEC$  はどんな三角形になりますか。「～ならば、……になる。」という形で書きなさい。

設問別（解答類型）調査結果 【数学B：主として活用】

高知市教育委員会一生徒

以下の集計値は、4月19日に実施した調査の結果を累計した値である。

設問番号	設問の概要	1	2	3	4	5	6	7	8	9	無解答
4 (1)	2つの辺の長さが等しい事を、三角形の合同を利用して証明する	8.6	7.6	0.0	0.0	8.3	9.0	18.2	2.9	13.9	31.5
	A中学校	18.3	11.1	0.0	0.0	9.6	7.3	15.1	2.4	13.9	32.3
	A中学校	30.5	2.4	0.0	0.0	18.3	8.5	18.3	1.2	15.9	4.9
4 (2)	DA:DC=1:2のときの△DECがどのような三角形になるかを説明する	20.3	5.9	6.4	0.8	0.1	0.6	7.7	4.9	12.8	40.5
	A中学校	29.8	6.3	5.5	0.9	0.3	0.3	11.0	4.3	11.1	30.5
	A中学校	42.7	8.5	6.1	1.2	0.0	0.0	14.6	3.7	12.2	11.0

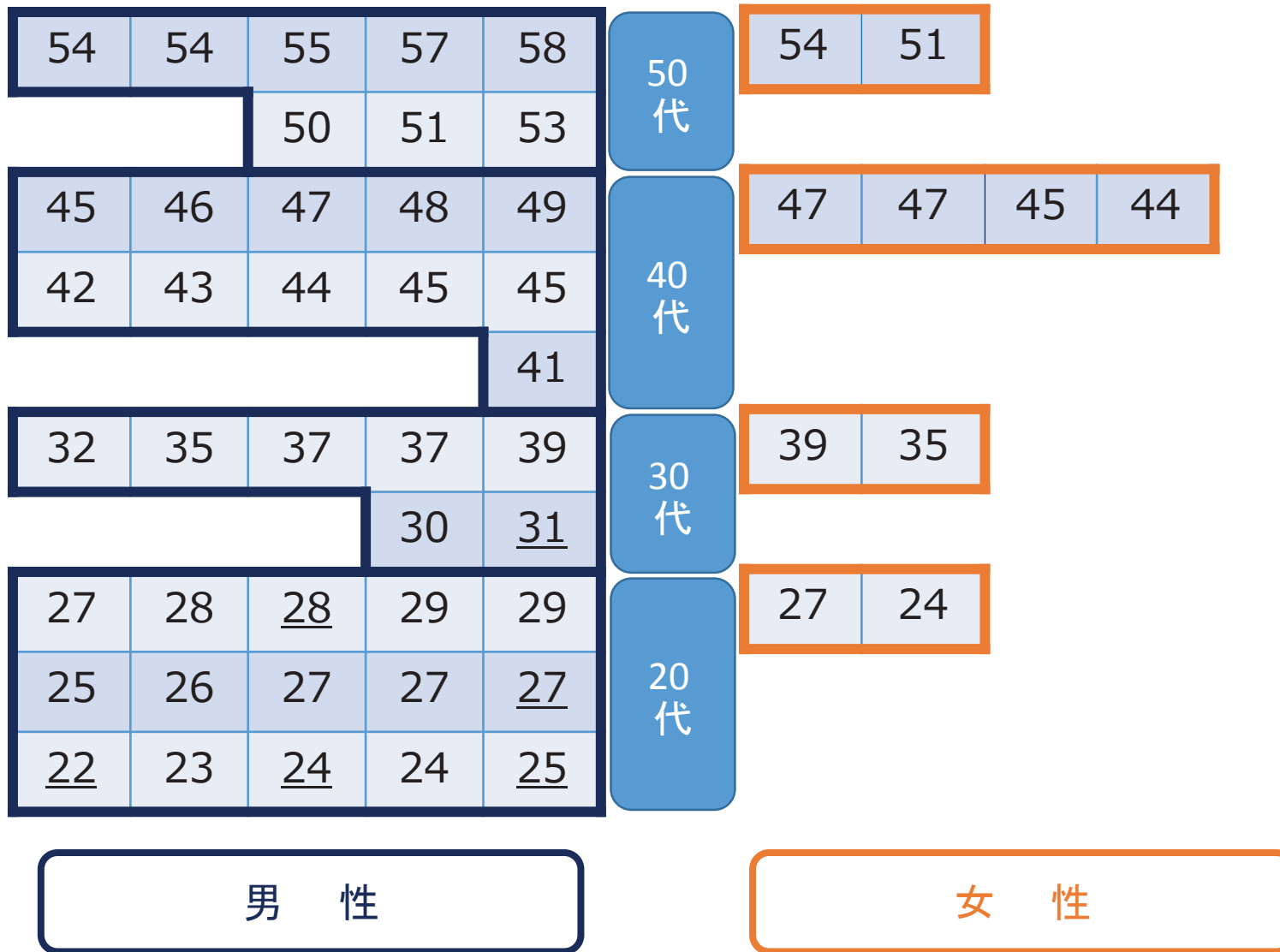
証明  
△AMEと△BMCにおいて、  
(例) 仮定より、AM=BM  
対頂角は等しいから、  
∠AME=∠BMC  
平行線の錯角は等しいから、  
∠MAE=∠MBC  
①、②、③より、  
1組の辺とその両端の角がそれぞれ等しいから、  
△AME≡△BMC  
AE=BC  
合同な図形の対応する辺は等しいから、

(例) DA:DC=1:2ならば、△DECはDE=DCの二等辺三角形になる。

設問番号	設問の概要	1	2	3	4	5	6	7	8	9	無解答
4 (2)	DA:DC=1:2のときの△DECがどのような三角形になるかを説明する	20.3	5.9	6.4	0.8	0.1	0.6	7.7	4.9	12.8	40.5
	A中学校	29.8	6.3	5.5	0.9	0.3	0.3	11.0	4.3	11.1	30.5
	A中学校	42.7	8.5	6.1	1.2	0.0	0.0	14.6	3.7	12.2	11.0

(正答の条件)  
「○」のみは、○になる。という形で、次の(a)、(b)の条件を満たし、成り立つ事柄を記述している。  
(a) ○○が、「DA:DC=1:2」である。  
(b) ○○が、「△DECは二等辺三角形」である。  
1. (a)、(b)の条件を満たして記述しているもの。  
2. 上記1について、(a)に關する記述が十分でないもの、または(b)に關する記述が十分でないもの。  
3. (a)に關する記述がなく、(b)の条件を満たして記述しているもの。  
4. (b)に關する記述が十分でないものを含む。  
5. (a)の条件を満たし、△DECについて(b)以外に成り立つ事柄を記述しているもの。  
6. (a)に關する記述がなく、△DECについて(b)以外に成り立つ事柄を記述しているもの。  
7. 「○」ならば、○になる。という形で、(a)の条件を満たし、成り立たない事柄を記述しているもの。  
8. 上記7について、(a)に關する記述がないもの。  
9. 上記以外の解答  
0. 無解答

# 高知市における数学教員の年齢別構成



※下線は初任者

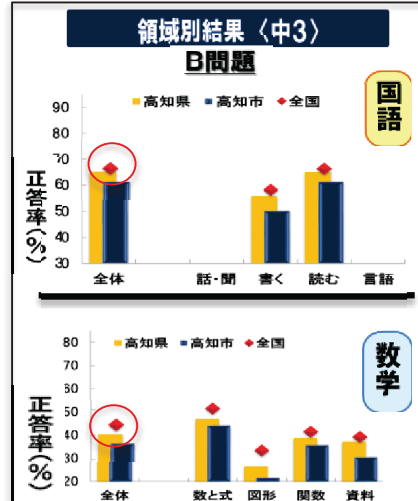
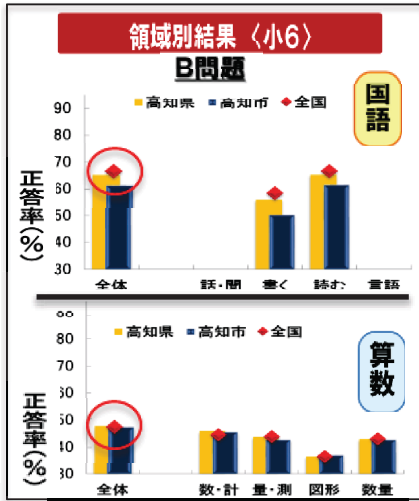


## ◆現状・課題

## ◆事業の概要

## ◆事業の目的

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果から



研究推進及び授業改善の方向性を具体的に示すことが必要

- 指導主事等による模擬授業等の実施**
  - 指導主事や学力向上SV等による活用向上を意識した模擬授業等を行い、授業改善の方向性を示す。
- 外部講師等の学校への派遣**
  - 諸条件により成果が出にくい中学校区について算数・数学に特化し、外部講師等を集中的に派遣する。
- 活用向上のための指導案集の作成**
  - 活用向上を目指した授業展開を指導案集として示し、活用を含め児童が主体的・協働的に学ぶ授業の確立を図る。
- 小社会書き写しノート**
  - 小社会を活用した「ことばの力育成」をめざす

- 各学力調査の結果から、改善が見られているものの、活用力が問われる問題においては、小・中学校ともに課題が見られるため、活用力の向上を図る。
- 外部講師等を中学校区単位で集中的に派遣することで、系統性の強い算数・数学の学力向上を図る。
- 活用向上を目指した授業展開の指導案集を作成する。
- 中学校における言語活動の充実を図ることで、活用力の育成をめざす。

### 期待される効果

- 指導主事等による活用向上を意識した模擬授業等により、具体的な授業改善のあり方を周知することができ、児童の知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成が図られる。
- 外部講師等を中学校区単位で集中的に派遣することで、小・中学校教員の授業改善への意識付けが可能となり、小・中9年間にわたる系統的な指導により、算数・数学の学力向上が期待できる。
- 本指導案集が、各学校において、活用を含め児童が主体的・協働的に学ぶ授業を確立していくための手立てとなり、それぞれの学校の課題を解決するための一助となる。そして、各学校における授業実践において、本指導案集が積極的に活用され、校内研究や授業改善等が推進される。
- 「小社会書き写しノート」の活用を通して、文章の構成力の向上や読解・表現力の向上、集中力の向上を図ることができる。

- 全国学力・学習状況調査の結果において、小・中学校ともに国語、算数・数学の活用力を問うB問題において全国平均を下回る。特に、中学校については、数学A・B問題において全国平均をマイナス7.7ポイント下回っている。
- 各学校においては活用力を含め児童が主体的・協働的に学ぶ授業づくりを目指し校内研究を推進している。しかしながら、授業では知識・技能の定着に重点が置かれた指導が行われており、教師の力量によって取組が異なる現状がある。
- 国語では小・中学校ともに「書く」領域が全国平均を大きく下回っている状況がある。

## ◆実施内容

### D 学校への支援

- ◇ 指導主事や外部講師等の派遣
- ◇ 活用向上のための指導案集を各小・中学校に配付
- ◇ 小社会ノートを各中学校に配付

### C 取組状況の確認・見直し

- ◇ 授業改善プラン等をもとに授業改善の進行管理を行う。
- ◇ 指導案集の活用状況を確認し、見直しを行う。
- ◇ 小社会ノートの活用状況を確認し、取組の検証を行う。

市教委の取組

### A 改善

- ◇ 指導案集については、各学校から出された意見をもとに改善を図る。

達成すべきレベル

- ◆ 学校評価「授業がよくわかる」肯定的回答児童（小）90%以上生徒（中）80%以上
- ◆ 小社会ノートの活用率を100%にする。

平成  
28・29

# 中学校組織力向上のための実践研究事業

学校教育課

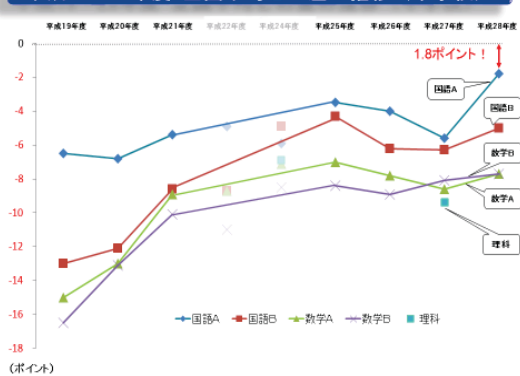
県・市協働



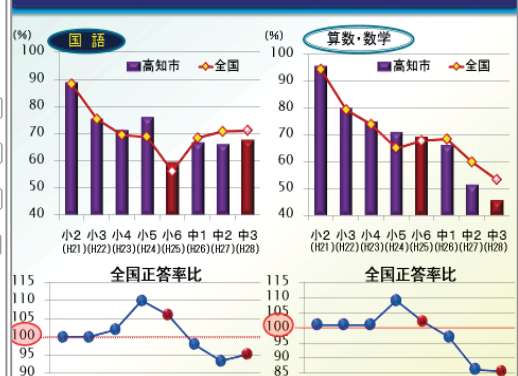
## ◆現状

### 全国学力・学習状況調査等の結果から

平成19～28年度 全国平均との差の推移（中学校）



現中学3年生の学力状況の経年変化（高知市）



授業力を組織的に高める仕組みが必要

- 1 国語Aでは全国平均まで1.8ポイントまで迫るなど、昨年度に比べ改善されているが、全国平均を下回る状況変わっていない。国語Bは-5.5ポイント、数学Bについては-7.7ポイントと全国平均との差が開いている。
- 2 中学校1年生から2年生にかけての学力の低下が著しく、中学校での授業改善の必要がある。
- 3 各学校においては活用力を含め児童・生徒が主体的・協働的に学ぶ授業づくりを目指し校内研究を推進している。しかしながら、授業が個々の教科担任に任されており、組織的に授業改善を図ったり、授業力を向上させたりする仕組みが十分に整っていない。



## ◆事業の概要

- 1 教科の組織的な指導体制のあり方についての研究を進めることにより、教員の協力体制や指導方法の改善を促し、組織力の強化（チーム化）と授業力の向上を図る。  
そのことによって、全国学力・学習状況調査結果から見られる中学校の学力課題（思考力の育成）の改善を図る。
- 2 研究指定期間 平成28～29年度（2年間）
- 3 研究指定校 4校  
・城東中学校 ・西部中学校  
・大津中学校 ・旭中学校

## ◆事業の目的

- 1 組織的に授業改善を図ったり、授業力を向上させたりする仕組みをつくるために、主幹教諭を配置し学校組織におけるライン機能を強化する。
- 2 一人の教員が複数学年を担当する教科の「タテ持ち」方式を導入する。
- 3 定期的な教科会や日常的なOJTなどを実施し、教員同士が切磋琢磨する機会を充実させる。

### 期待される効果

中学校教員の授業力を組織的に高める仕組みを普及することにより、中学校の組織力が高まり、学力が向上する。

## ◆実施内容



### 取組

- ・組織力向上エキスパートが研究校を訪問し、管理職や各教科教科会等への指導助言を行う。
- ・研究協議会と主幹教連絡会を開催する。
- ・福井県の先進校視察を実施する。



### 成果○・課題△

- 主幹教諭を中心に、校内研修等において系統的・計画的なOJT機能が働き始めている。
- 時間割に組み込まれた教科会に加え、必要に応じて教科会を実施するようになり、授業の内容や指導方法など全教員が共通理解をして取り組むことができている。
- △所属学年のうち、担当していない学級の様子を把握することが難しい。
- △教科会の内容の精選に課題がある。



### 今後の方向性

教科会を効果的に行うための提案や、教科会と学年会等との連携について指導助言を行う。  
教科の「タテ持ち」を組織できる学校を8校に増やす。（平成29年度）

達成すべきレベル

平成29年度全国学力・学習状況調査  
全国比  
（国語）100  
（数学）100

# 中学校組織力向上のための実践研究事業

学校教育課

	学校名	成果	課題	課題解決に向けて
1	城東中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科担任ごとの指導方法や授業の質のばらつきを改善することができた。</li> <li>・OJTを意識した校内研修を行うことで、教科や学年を超えた職員間のコミュニケーションが充実してきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年の教材研究をする時間を十分確保することができない。</li> <li>・個々の指導方法があり、各教科として統一した方法で指導に当たれない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科会として、全校研へ同じ目的をもって取り組めるように計画し、成功体験をもたせる。</li> <li>・「タテ持ち」のよさを教科会で感じられるように、主幹教諭中心に教科会をコーディネートしていく。</li> </ul>
2	西部中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の進度や宿題について系統立って考えることができる時間が確保できた。</li> <li>・教材(具体物等)を共有することができた。</li> <li>・授業アンケートを活用した授業改善を行い、授業におけるスタンダードの作成に役立っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の考え方や実践へのこだわりがあり、協働で授業をつくるという点では弱く、指導方法も統一することが難しい。</li> <li>・教科会が、若年教員が悩みを出せる場になっていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科会を若年教員が悩みを出せる場として活用し、OJTを進めていく。</li> <li>・計画的に授業参観や授業について協議する場を設定し、具体的な助言や教科会への提案につなげていく。</li> </ul>
3	大津中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の習熟度や課題を共有できている。</li> <li>・指導方法や教材などの検討ができる。</li> <li>・教員間での刺激となり、高まり合おうとする意識が生まれてきた。</li> <li>・授業改善のサイクル化を図ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科会で話題が尽きず、協議内容が消化できなくなり、事後の振り返りや検証が十分にできないことが多い。</li> <li>・縦、横の組織がうまく連動していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科会が充実できるように、協議内容を精選し、提案を分担していく。</li> <li>・各委員会や主任会の役割や協議内容を整理し、学校組織が円滑に進むようにしていく。</li> </ul>
4	旭中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導内容や方法を交流することで、個々の力量だけの指導方法から脱却できつつある。</li> <li>・全学年を把握できるようになり、全学年を視野に入れた協議が行えるようになってきた。</li> <li>・若年教員の提案をもとに教科会で検討することで、若年教員を育成する機会が増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時間数を確保するために時間割が不安定で、定期的な教科会の実施と円滑な学校運営を両立することが困難である。</li> <li>・教職員の年齢構成に偏りがあり、学校として人材育成の視点がもちにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織として教育課題を解決する力を向上させるために、会議と校内組織のあり方を研究していく。</li> <li>・校内研修会でグループワークを行い、年齢や経験年数の違いからくる指導観や生徒観の共有に努める。</li> <li>・教科会を中心として若年教員へ指導していく。</li> </ul>

## 教科の「タテ持ち」を組織できる学校

今後の方向性

平成28年度  
4校



平成29年度  
8校



平成30年度  
( )校



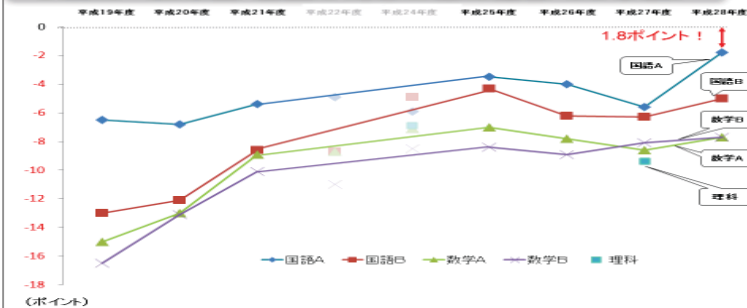
平成31年度  
( )校



## ◆現状・課題

## 平成19～28年度 全国学力・学習状況調査の結果から

## 平成19～28年度 全国平均との差の推移（中学校）



平成19年度から28年度までの全国学力・学習状況調査結果をみると、小・中学校とも全体的には改善している。

しかしながら依然として中学生の学力を全国水準に引き上げることができていない状況である。中学校の学力改善には小学校からの積み上げが大きなポイントとなる。

## ◆事業の概要

## 支援員配置について

## 1 勤務形態及び勤務日数・時間

- ・ 小学校（放課後学び場支援員）  
週4日 1日4時間
- ・ 中学校（放課後等学習支援員）  
週5日 1日4時間
- ・ 中学校（学力向上学習支援員）  
週5日 フルタイム

## 2 職務

- ・ 放課後や長期休業中等における自主学習や加力学習における個別指導等による学習支援業務。
- ・ 授業支援や学校教育活動における支援業務
- ・ 放課後学習に関わる教材作成及び準備

放課後学び場づくり推進事業は、高知市立学校に放課後や長期休業日等に、学習室を開設し、当該学習室に支援員を配置して、児童生徒の学習習慣の定着と学力向上を図る。

## 目標

- ・ 小学校では全国トップレベル（全国平均比105）
- ・ 中学校では全国平均レベル（全国平均比100）

## ◆実施内容

## 各校への配置

- 1 小学校26校に26名  
(27年度18校18名)
- 2 中学校17校に21名  
(27年度17校27名)

## 成果○・課題△

- 平常の授業における、理解が不十分な生徒にとって、放課後における個別学習は効果が高い。
- 自分にあった速度で学ぶことができ、肯定感や学習に積極的に取り組む姿勢が見られるようになってきている。
- △ 課題のある児童生徒への放課後学習へのアプローチが各校様々で、下位層の引き上げが焦点化されていない。
- △ 課題のある児童生徒に対する指導にあたっては、学習内容の質的向上が課題である。

## 今後の方向性

- ◇ 支援員が配置された学校は、実績報告書を3月末日までに提出。各学校から出された意見を元に、見直し改善を図る。
- ◇ 小学校における「つまずき」を解消するため、全小学校への配置を検討。

達成すべきレベル

- ◆ 全国学力・学習状況調査に係る児童生徒質問紙による「普段、学校の授業以外に、全く勉強しない」と回答する割合を0に近づける。
- ◆ 「普段、学校の授業以外の勉強で、1時間以上」と答えた児童生徒の割合を全国平均に近づける。

放課後等学習支援の取組について

小 学 校	平成27年度（平成27年度末）		平成28年度（9月30日現在）		備 考
	放課後学び場支援員	学力向上学習支援員	放課後学び場支援員	学力向上学習支援員	
第 四 小	1人				
第 六 小			1人		
江 ノ 口 小	1人		1人		
江 陽 小					
旭 小	1人		1人		
旭 東 小	1人		1人		
潮 江 小					
潮 江 東 小			1人		
小 高 坂 小			1人		
昭 和 小			1人		
秦 小	1人		1人		
初 月 小					
横 浜 小	1人		1人		
長 浜 小	1人				
浦 戸 小			1人		
三 里 小					
五 台 山 小			1人		
高 須 小					
布 師 田 小	1人				
一 宮 小	1人		1人		
久 重 小					
行 川 小					平成28年度より義務教育学校へ
朝 倉 小			1人		
鴨 田 小	1人		1人		
一 ツ 橋 小					
介 良 小					
大 津 小	1人		1人		
朝 倉 第 二 小	1人		1人		
潮 江 南 小	1人		1人		
神 田 小	1人		1人		
泉 野 小			1人		
一 宮 東 小	1人		1人		
十 津 小	1人		1人		
横 浜 新 町 小	1人		1人		
介 良 潮 見 台 小			1人		
横 内 小			1人		
鏡 小					
土 佐 山 小					平成28年度より義務教育学校へ
春 野 東 小					
春 野 西 小	1人		1人		
は り ま や 橋 小			1人		
合 計	18人		26人		
中 学 校	平成27年度（平成27年度末）		平成28年度（9月30日現在）		備 考
	放課後学び場支援員	学力向上学習支援員	放課後学び場支援員	学力向上学習支援員	
城 北 中	2人	1人	1人	1人	
城 西 中	1人	1人	1人	1人	
愛 宕 中	1人	1人	1人	2人	
城 東 中	2人	2人	2人	1人	
潮 江 中	2人	2人	1人	1人	
一 宮 中	1人	1人	1人	1人	
青 柳 中	2人	1人	2人	1人	
朝 倉 中	2人	2人	1人	1人	
行 川 中					平成28年度より義務教育学校へ
三 里 中	1人	1人	1人	1人	
南 海 中	2人	1人	1人	1人	
西 部 中	2人	1人	1人	1人	
介 良 中	2人	1人	1人	1人	
大 津 中	1人	1人	1人	1人	
旭 中	2人	1人	2人	1人	
横 浜 中	2人	1人	2人	1人	
鏡 中					
土 佐 山 中	1人				平成28年度より義務教育学校へ
春 野 中	1人	1人	1人	1人	
高 知 特 別 支 援 学 園					
行 川 学 舎					
土 佐 山 学 舎			1人		
合 計	27人	19人	21人	17人	

H27実績

H28予算

事業費（放課後学び場支援員） 44,165,187

51,432,318

※ 平成28年度から、小学校は放課後学び場支援員配置事業、中学校は放課後等学習支援員配置事業

※ 平成28年度における県からの補助割合（小学校へは1/3、中学校へは2/5）

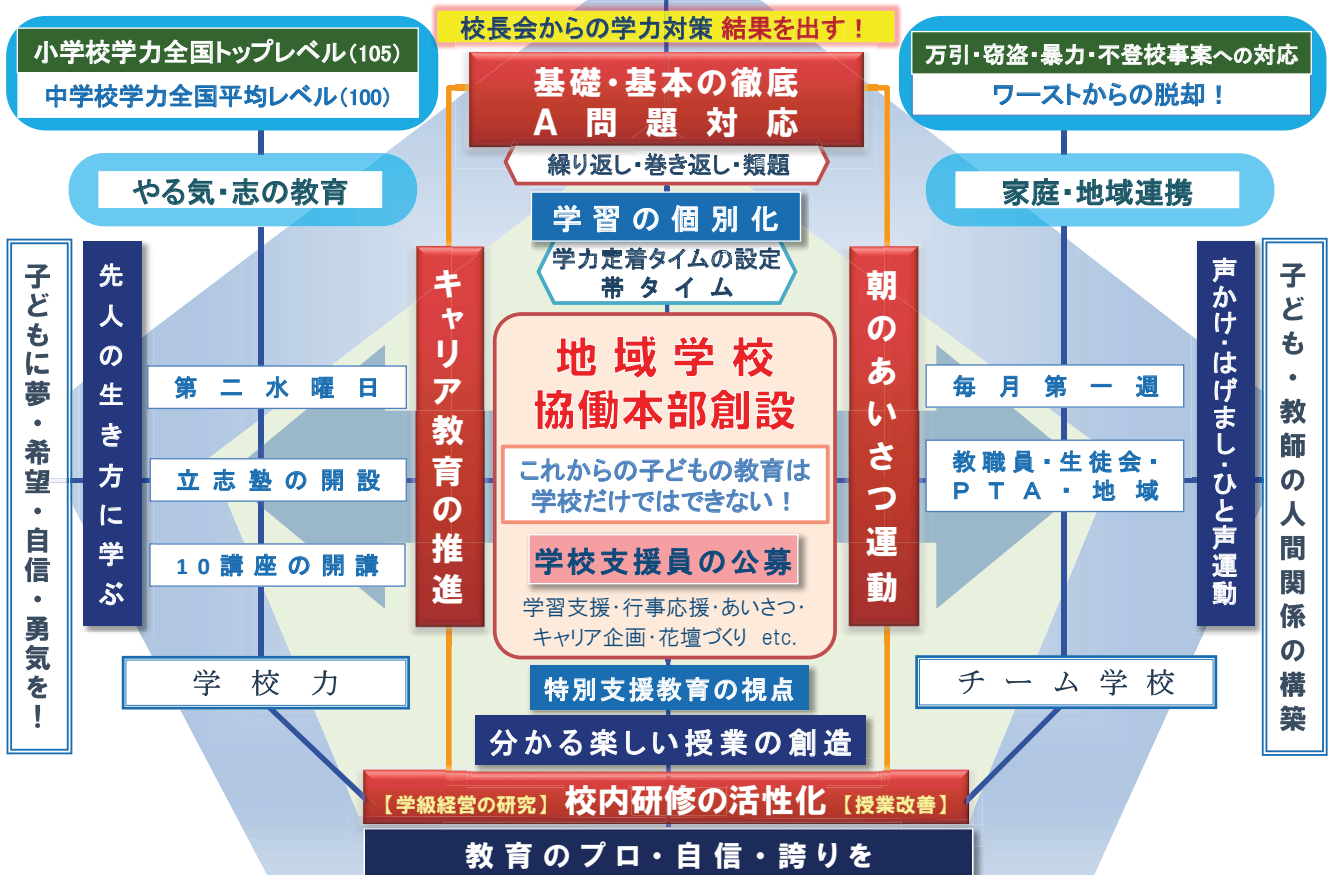
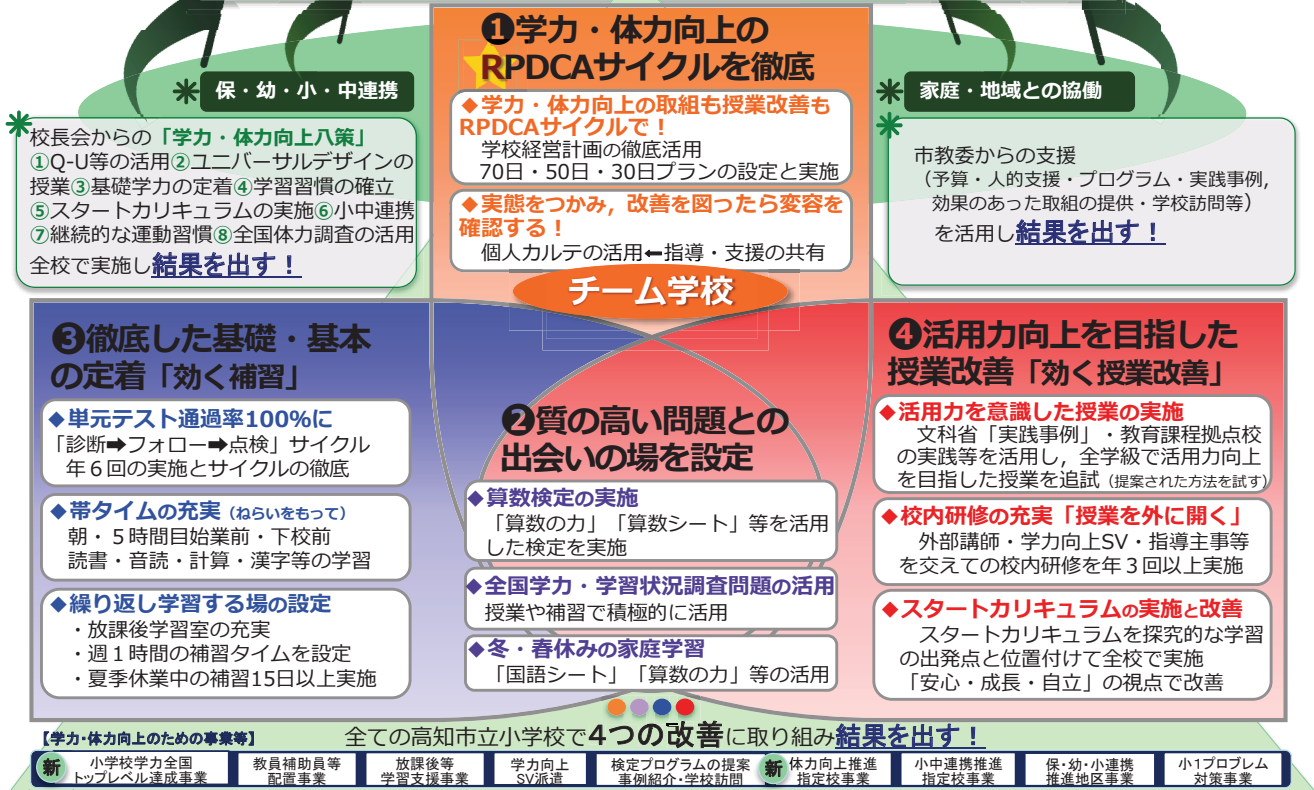
平成28年度 学力向上に係る加力教室の開設について

高知市立横浜中学校

項目		通常の加力教室	定期テスト前加力教室	発展加力教室	長期休業中の加力・補習	数学単元テスト補習	学力調査補習
1	ねらい	○放課後の時間帯に学習プリント等を活用して、基礎学力の定着または発展的学習を行う。	○定期テストの対策を行うことを通じて、基礎的な内容を習得する。また、部活動加入者等のテストへの取り組み意識を高める。	○入試問題等の発展的な内容を学習することによって、入試に対する総合的な実戦力を身につける。	○長期休業中にリズムよく学習する習慣を身につける。 ○1学期の学習内容の定着を図る。	○家庭学習習慣の確立・基礎学力の定着をねらいとする。また、3年生は公立高等学校入学者選抜対策の一助とする。	○学力調査において、身につけておくべき学習内容が未定着であった生徒について、基礎的な学力を身につける。
2	期間	通年（毎週月・水・金）	定期テスト前1週間を限定	10月以降で実施日を設定	事前に学習日を設定（補習は夏季の5日間）	数学の各単元学習後（火または木の放課後）	学力調査集計後
3	学習時間	①行事等のない日程で放課後1時間程度（最長でも17時まで）。 ②校時に変更がある場合は、終学活終了5分後より始め、1時間程度行う。 ③学校行事等で、休講する場合もある。	①各定期テスト前1週間、放課後から1時間程度で最長17時まで。	①2学期は、放課後に週2～3回で設定する。 ②3学期は、放課後に週3～5回で設定する。	①1年…9:00～10:30 ②2年…10:30～12:00 ③3年…13:00～14:30 ④全学年…14:30～16:00	①学年ごとに取り組み日を設定する。	①学年ごとに取り組み日を設定する。
4	場所	第2多目的室	①1年…第2多目的室 ②2年…2年の各教室 ③3年…第1・2理科室	第2多目的室または第1理科室	第2多目的室または第1理科室	各学年の教室	各学年の教室
5	指導者	①部活動（毎日活動している部活動）の副顧問が輪番で担当：岩佐、市原、水野、前田、立仙、柿葉、森田、土居、加藤、川崎、福田 ②学年会のある月曜日は4年団が担当：徳橋、亀岡、下坂、岡林	①各学年の国・社・数・理・英の教科担当教員 ②プラス学年教員1名以上	①3年の教員を中心とし、通常の加力教室と同じように担当教員を決める。	①部活動を主に担当している教員以外の教員で担当する。	①学年の全教員で担当	①学年の全教員で担当
	支援員	○学力向上補助員（ ） ○教員補助員 ○放課後学び場支援員（大和田・本山） ○学生チューター（ ）	○学力向上補助員（ ） ○教員補助員 ○放課後学び場支援員（大和田・本山） ○学生チューター（ ）	○学力向上補助員（ ） ○教員補助員 ○放課後学び場支援員（大和田・本山） ○学生チューター（ ）	○学力向上補助員（ ） ○教員補助員 ○放課後学び場支援員（大和田・本山） ○学生チューター（ ）	○学力向上補助員（ ） ○教員補助員 ○放課後学び場支援員（大和田・本山） ○学生チューター（ ）	
6	対象生徒	○ <b>希望者</b> ：国語、数学、社会、理科、英語の基礎学力の定着または発展的な学習を希望する生徒。	○ <b>希望者</b> ：国語、数学、社会、理科、英語の基礎学力の定着または発展的な学習を希望する生徒。	○ <b>3年生の希望者</b> ：入試問題等の発展的な内容の学習を希望する生徒。	○ <b>補習…対象者指定</b> ：1学期の成績に基づいて学年で決定。 ○ <b>加力…希望者</b> ：基礎的・発展的学習を希望する生徒。	○ <b>対象者指定</b> ：教科担当が単元テストの合格点を決め、採点後に補習対象者を決定する。	○ <b>対象者指定</b> ：学力調査の結果に基づき、学年会で対象者を決定する。
7	確認事項	①学期毎に希望者を募る。 ②希望者は、原則として実施日全てに参加すること。 ③指導は学力向上補助員等の支援員を中心とし、加力指導担当教員がサポートする。 ④プリント等の教材は支援員が準備する。	①各回ごとに希望者を募る。 ②使用するプリントは、各学年の各テストの教科担当が選定する。 ③教科担当は使用するプリントの原本とその解答を支援員に渡す。 ④使用するプリントの印刷・製本は、支援員が行う。	①2学期分・3学期分に分けて希望者を募る。 ②使用するプリント等の教材は、支援員が準備する。 ③入試問題の過去問題などを中心に行う。	①補習は、各学年の5教科の教員が中心となり、支援員を加えて行う。補習の教材は教員が準備する。 ②加力教室は、担当教員1名と支援員が行う。教材は支援員が準備する。	①補習対象者にフォローアッププリントの内容にそって補習指導を行い、再テストを実施する。 ②再テスト後、採点する。 ③間違えたり、躓いている問題を再度補習し、テストを満点にする。 ○県教委Web入力、数学の教科主任が担当する。	①学力調査の問題に再度取り組んだり、基礎的な内容の教材を用いて、基礎学力の定着を図り、該当年度内に学習すべき内容をしっかりと身につけさせる。

※ 制度上、支援員だけで指導を行うことはできません。

### 小学校学力全国トップレベル達成！体力向上！



# 学力向上 *Active* アクティブ・プラン

高知市教育委員会学校教育課

## 課題と事業のマネジメント

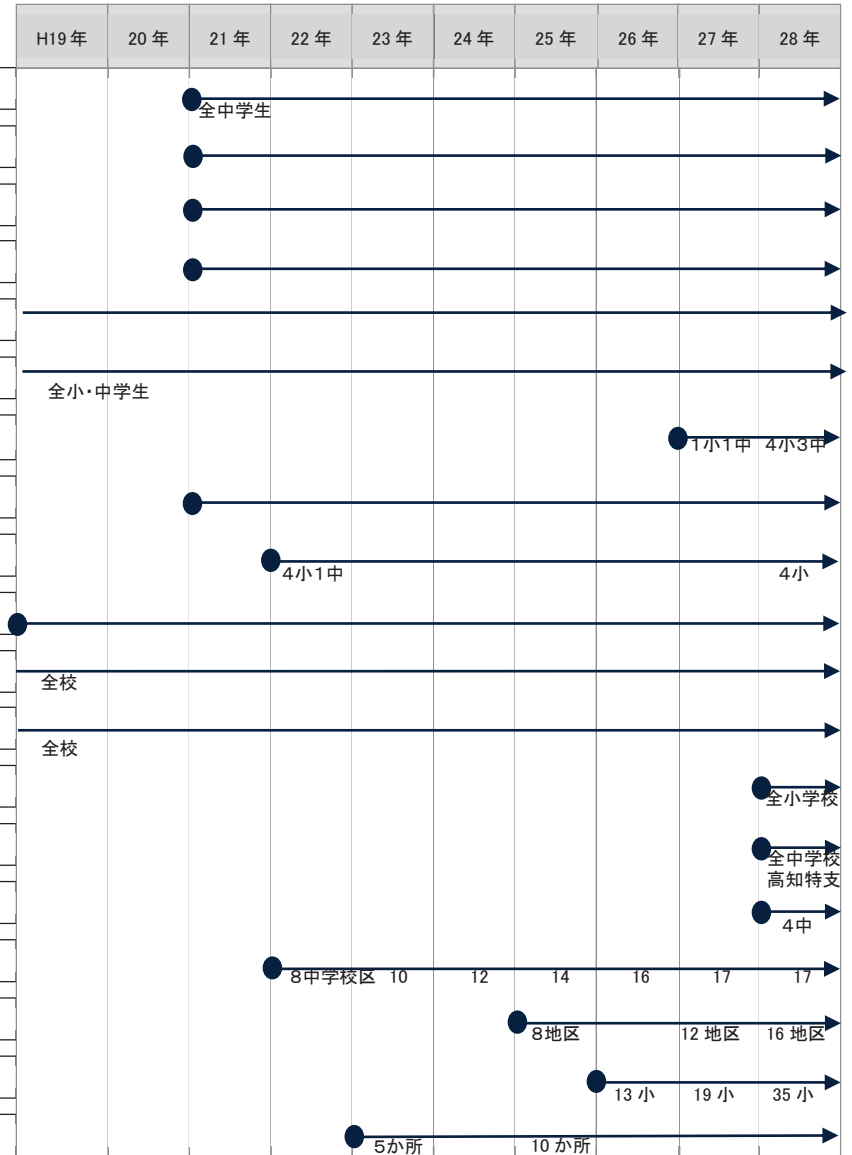
【高知市の学力向上における課題】

【課題に対応するための主たる事業等】

今後、重点的な  
取組が必要↓4へ

- 学習習慣の確立
- 基礎学力の定着
- 思考力・判断力・表現力等の育成
- ★ 学びに向かう力の育成
- ★ 新しい教育課程の理解と共有
- 学力調査の活用
- 学校の組織力の向上
- 学校段階間の接続
- 子どもの貧困対策(学びの場づくり)

- 中学校学習習慣確立推進事業(家庭学習冊子の配付)
- 放課後等支援員配置事業
- 教員補助員等配置事業
- 学校図書館支援員配置事業
- 学習コンピューター派遣事業
- 国・算・数・NIE等学習用冊子の作成・配付
- 探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業
- 学力向上スーパーバイザーの派遣
- 教育課程拠点校事業(国・社・算・理)
- 学力向上のための出前研修(指導主事等の学校訪問)
- 到達度把握調査の実施(小4・5, 中1・2)
- 学校個性化推進事業
- 小学校学力全国トップレベル達成事業
- 中学校学力向上対策強化事業
- 中学校組織力向上のための実践研究事業(教科部会)
- 小中連携推進指定校事業
- 保・幼・小連携推進地区事業(保育幼稚園課との連携)
- 小1プロブレム対策事業(小1サポーター・スタートカリキュラム)
- 高知チャレンジ塾運営事業(健康福祉部との連携)

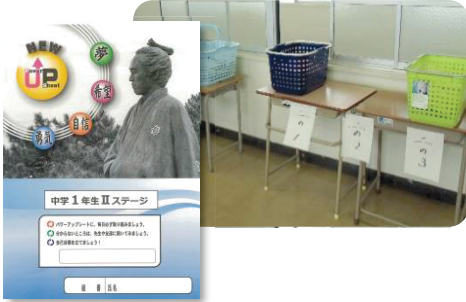


※小・中学校に義務教育学校を含む  
※事業名は年度により変更有り



# 本年度の事業展開

## 学習習慣の確立



本年度はパワーアップシートを国・数・英の3教科に絞り、教科書に完全準拠した問題冊子として全生徒に配付した。6月現在の調査によると、「学校の授業以外に全く勉強しない生徒の割合」は、中1[2.1%]中2[4.7%]中3[3.1%]と低く抑えられている。

## 基礎学力の定着



放課後等学習支援員配置事業を活用し、小22校に22名、中17校に20名、高校に2名の支援員を配置し、放課後等の補習の充実を図っている。中学校では3学年合計で100名を超える生徒が学んでいる学校もあり、夏季休業中も継続して実施する。

## 思考力・判断力・表現力等の育成



学力向上スーパーバイザー3名が、初任者配置校を定期的に訪問し、初任者(小32名・中20名)への指導を行っている。また、学校からの要請を受け、思考力・判断力・表現力等の育成を目指した授業づくりのために1学期には27回の指導・助言を行っている。

## 新しい教育課程の理解と共有



次期学習指導要領を見据えて、国語[潮江東小]、社会[昭和小]、算数[泉野小]、生活科・理科[高須小]を中心に、教育課程の研究・充実を図っている。本年度は4校において、6月～12月に中間発表会を行い、高知市の他校にも広く発信する。

## 学力調査の活用



各校における到達度把握調査や全国学力・学習状況調査の結果から明らかになった課題の分析や、解決に提案をするために、指導主事等が各校への出前研修を行っている。6月から9月を中心に小学校20校、中学校7校を訪問して改善につなげる。

## 学校の組織力の向上



学校の組織力向上のために、中学校4校(城東・西部・大津・旭)に主幹教諭を配置し、教科担当が単学年でなく複数学年を受け持つ体制をつくることで、教科部会の充実を図っている。1学期には8回の研修を行っている。

## 学校段階間の接続



幼児期の学びと育ちを基礎とした、安心・成長・自立のための小1スタートカリキュラムを全小学校で実施した。小1サポーター(9月12日現在)35校99名の配置(4月～9月末)により、個別の支援の充実を図っている。

## 子どもの貧困対策(学びの場づくり)



高知チャレンジ塾10か所(城北、潮江、朝倉、南海、西部、愛宕・城東、一宮、青柳・三里、介良・大津、春野)への8月末参加登録生徒数330名(昨年度306名)。学習支援員70名の指導により、意欲的に学ぶ生徒の姿が見られている。

# 学力向上 *Active* アクティブ・プラン

H28年度 小学校における学力向上対策

H28年度 中学校における学力向上対策

### H28 高知市学力対策第二ステージ —小学校 共通課題—

小学校学力全国トップレベル達成! 体力向上!

校長会からの「学力・体力向上施策」  
①Q・I等の活用をユニバーサルデザインの授業・基礎学力の定着・学習習慣の確立  
②スタートカリキュラムの実施を小中連携  
③継続的な運動習慣と全国体力調査の活用  
全校で実施し、結果を出す!

①学力・体力向上のRPDCAサイクルを徹底  
●学力・体力向上の取組も授業改善もRPDCAサイクルで!  
●学校経営計画の範囲活用  
70日・50日・30日プランの設定と実施  
●実施をつかみ、改善を図ったら改善を確定する!  
個人カルテの活用・指導・支援の共有

②質の高い問題との出会いの場を設定  
●算数検定の実施  
「算数の力」「算数シート」等を活用した検定を実施  
●全国学力・学習状況調査問題の活用  
授業や補習で積極的に活用  
●冬・春休みの家庭学習  
「国語シート」「算数の力」等の活用

③活用向上を目指した授業改善「効く授業改善」  
●活用力を発揮した授業の実施  
文科省「実践事例」、教育課程拠点校の実践等を活用し、全校で活用向上を目指した授業を協議・検証(協議した方を必ず)  
●校内研修の充実「授業を外に開く」  
外部講師・学方向上SV・指導主事等を交えての校内研修を年3回以上実施  
●スタートカリキュラムの実施と改善  
スタートカリキュラムを探究的な学習の出発点と位置付けて全校で実施  
「安心・成長・自立」の視点で改善

④徹底した基礎・基本の定着「効く補習」  
●単元テスト通過率100%に  
【診断→フォロー→点検】サイクル  
年6回の実施とサイクルの徹底  
●帯時間の充実(ねらいもって)  
朝・5時間目始業前、下校前  
読書、目標・計算・漢字等の学習  
●繰り返し学習する場の設定  
・放課後学習室の充実  
・週1時間の補習タイムを設定  
・夏休前中の補習15日以上実施

全ての高知市小学校で4つの改善に取り組み、結果を出す!

取組の方向性はよい✓  
成果も出ている✓  
本年のスタート良好✓  
さらに  
結果につなげるために

### H28 高知市学力対策第二ステージ —中学校 共通課題—

小学校学力全国トップレベル(105)  
中学校学力全国平均レベル(100)

校長会からの学力対策 結果を出す!

基礎・基本の徹底 A問題対応  
繰り返し・巻き返し・類題

学習の個別化  
学力定着タイムの設定  
帯タイム

地域学校協働本部創設  
これからの子どもの教育は  
学校だけではできない!  
学校支援員の公募  
学習支援・行事応援・あいさつ・  
キャリア企画・花壇づくり etc.

特別支援教育の視点  
分かる楽しい授業の創造

やる気・志の教育  
第二水曜日  
立志塾の開設  
10講座の開設

学校力

子どもに夢・希望・自信・勇気を!

家庭・地域連携  
毎月第一週  
教職員・生徒会・  
PTA・地域

チーム学校

子ども・教師の人間関係の構築  
声かけはげまし心と算運動

朝のあいさつ運動

【学級経営の研究】 校内研修の活性化【授業改善】  
教育のプロ・自信・誇りを

## 学力向上 アクティブ・プラン H29~H32 3つのアクティブ

今ある事業の精度を高め、一つ一つの取組を **アクティブ** (機能的) に!

状況に応じた提案をし、学校の取組を **アクティブ** (主体的・組織的) に!

主体的・対話的で深い学びを実現するために、授業を **アクティブ** (活性化するように) に!

### Active 1

### Active 2

### Active 3

各事業のRPDCAサイクルをまわす	各校の状況分析と必要な手立ての提案をする	学習指導要領改訂に向けて教育課程を見直す
<p>取組の方向性はよく、成果も出ている。さらに結果につなげるために次の4点を通して改善を図る。</p> <p>①「これだけは全小・中学校で共通して取り組む」内容について、学力向上プロジェクトチームの学校訪問と進捗管理</p> <p>②授業アイデア例の配付と指導主事等の模擬授業</p> <p>③学年末の「学び直しの場」を設定</p> <p>④単元テストを活用した個人カルテ・検定の導入</p>	<p>各校の学力調査結果や学力向上の取組を基に、A(取組が安定的に成果につながっている)・B(成果につながる取組ができつつある)・C(諸条件により成果が出にくい)の3つのグループに分け、状況に対応した取組を複数提案(メニュー方式)する。</p> <p>(案)H28後期から(全小・中)状況別取組の提案と検証</p>	<p>本市の課題のうち、【学びに向かう力】・【新しい教育課程の理解と共有】については、これまで事業として十分な取組ができていなかった。子どもたちに新しい時代を切り開いていく資質・能力を育むためにも、次期学習指導要領の理解と実践のためにも、これらの課題に対して新規事業を立ち上げ取り組むことが求められる。</p> <p>(案)H29新(全小・中、研究・教務、年3回)新教育課程に特化した研修 (案)H29新(4小・1中)カリキュラム・マネジメントモデル事業</p>

# スケジュール

目標：全国比 105(小)・100(中)

全国学力・学習状況  
調査結果公表

H19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

- ・小学校学力全国トップレベル達成事業
- ・中学校学力対策強化事業

- ・アクティブ1  
①②③④個人カルテ・検定試行
- ・アクティブ2 メニュー方式試行

- ・アクティブ3 新教育課程研修  
カリキュラム・マネジメントモデル事業

## 学力対策第一ステージ

## 学力対策第二ステージ

## 学力向上アクティブ・プラン





小学校1年から中学校3年まで

数学的な考え方 知識・理解 技能

単元	項目	回数	問題番号	1回目	2回目	3回目	年度末	検定結果
なかまづくりとかず	5個のものの数を表すことができる。 具体的場面に即して、1つも無いことを「0」と表すことを理解している。 数の大小や順序を考慮することによって、数の系列を表すことができる。 ものの個数の集合を絵を用いて整理することができる。 ものの個数を表した絵から、数が最も多いものを読み取ることができる。	1	1					
			2					
			3					
			4					
			5					
なんばんめ	集合数と順序数の違いを理解している。		6					
			7					
			8					
いくつといくつ	8についての構成を理解している。 9についての構成を理解している。		9					
			10					
あわせていくつ ふうえるといくつ のこりはいくつ ちがいはいくつ	和が10以内の加法ができる。 ひかれる数が10以内の減法ができる。 加法が用いられる場面を式に表すことができる。 減法が用いられる場面を式に表すことができる。 20までの数について、「10といくつ」に分解することができる。 20までの数について、「10といくつ」で示された数を合成することができる。 数の大小や順序を考慮することによって、数の系列を表すことができる。 2位数と1位数の加法の計算ができる。 2位数と1位数の減法の計算ができる。	2	1					
			2					
			3					
			4					
			5					
10よりおおきいかず	20までの数について、「10といくつ」で示された数を合成することができる。 数の大小や順序を考慮することによって、数の系列を表すことができる。 2位数と1位数の加法の計算ができる。 2位数と1位数の減法の計算ができる。		6					
			7					
			8					
			9					
			10					
なんじなんじはん	時刻の読み方を理解し、時計を見て「何時半」を読むことができる。		10					
どちらがながい	ものの長さを、マス目を使って比べることができる。		1					
3つのかずのけいさん	3つの数の加法の計算の仕方を理解し、正しく計算することができる。 3つの数の減法の計算の仕方を理解し、正しく計算することができる。 3つの数の加減混合計算の仕方を理解し、正しく計算することができる。 加法と減法が用いられる場面を式に表すことができる。 体積の大小を比べることができる。 体積について、身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つか数値化し、比べることができる。 任意単位による体積の測定方法を理解している。	3	2					
			3					
			4					
			5					
			6					
どちらがおおい			7					
			8					
			9					
			10					

数学的な考え方 知識・理解 技能

単元	項目	回数	問題番号	1回目	2回目	3回目	年度末	検定結果
正負の数	反対の性質をもつ量は、+、-の符号を使って表すことができることを理解している。 数直線上の負の数を読み取ることができる。 負の数の大小の比べ方を理解し、不等号を使って表すことができる。 絶対値が同じ数には、正の数と負の数があることを理解している。 異符号の数の加法の計算ができる。 加法と減法の混じった計算ができる。 同符号の数の除法(分数)の計算ができる。 累乗をふくむ乗法の計算ができる。 かっこがある四則の混じった計算ができる。 ある値を基準にして表された値から、最高点と最低点の差を求めることができる。 正の数、負の数を用いて、身の回りの事象を表すことができる。 正の数、負の数を用いて、様々な事象における状況を捉えることができる。	1	1					
			2					
			3					
			4					
			5					
			6					
			7					
			8					
			9					
			10					
			11					
			12					
文字と式	乗法の記号×を省き、数を文字の前に書くことを理解している。 同じ文字の積は累乗の指数を使って表すことを理解している。 与えられた文字式の意味を、具体的な事象の中で読み取ることができる。 道のりと速さから時間を式で表すことができる。 数量の間の関係を不等式で表すことができる。 式の値を求めることができる。 式を簡単にすることができる。 1次式と数の乗法の計算ができる。 1次式と数の除法の計算ができる。 分配法則を使ってかっこをはずし、式を簡単にすることができる。 文字式から情報を読み取り、具体的な場面にあてはめて考えることができる。 文字式をもとに、図から読み取ったことを用いて、式の意味を論理的に説明できる。	2	1					
			2					
			3					
			4					
			5					
			6					
			7					
			8					
			9					
			10					
			11					
			12					
方程式	等式の性質を利用した方程式の解き方について理解している。 移項を用いて方程式を解くことができる。 分母を払い、左辺と右辺にある項をそれぞれ移項してa×bの形に整理し、方程式を解くことができる。(at 0の場合) かっこのある方程式を解くことができる。 比例式の性質を利用して、xの値を求めることができる。 方程式の解き方を理解し、誤りを指摘することができる。 方程式を正しく解くことができる。 等しい関係にある数量を見つけて、方程式をつくることができる。 方程式を解いて文章題の答えを求めることができる。 方程式の解を用いて、答えを求めることができる。 具体的な事象の中の数量の関係を捉え、目的の値を求める方法を説明できる。	3	1					
			2					
			3					
			4					
			5					
			6					
			7					
			8					
			9					
			10					
			11					
			12					

# 案 カリキュラム・マネジメントモデル事業

## ◆現状・課題

### 学校が抱えている教育課程(カリキュラム)上の課題

教科書単元の配列表を教育課程とすることが多く、作成後はあまり活用されていない。  
**意識化**

一人一人の教員が授業をし、単独で振り返りをする事が多く、組織的な教育課程の見直しができていない。  
**組織化**

教育課程には様々な内容を盛り込むことが求められているが、授業時数は限られているので工夫が必要。  
**教科横断**

授業改善が1時間の授業を対象に検討されることが多く、単元や教育課程レベルの改善につなげていない。  
**単元レベル**

マネジメントの視点が必要

### カリキュラムとは?

教育課程とも言う。「学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を児童・生徒の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画である。』『学習指導要領解説総則編』から

### カリキュラム・マネジメントとは?

カリキュラムを主たる手段として学校の課題を解決し、教育目標を達成していく営み。『カリキュラムマネジメント—学力向上へのアクションプラン—』田村知子著から

## ◆事業の概要

各校において、カリキュラムを計画するだけでなく、適切に実施し、子どもに育成したい学力をつけていたためにカリキュラム・マネジメントの充実を図る。4小学校・1中学校をモデル校とする予定。

次期学習指導要領においては、資質・能力の育成をめざしたカリキュラム・マネジメントの充実が強く求められている。

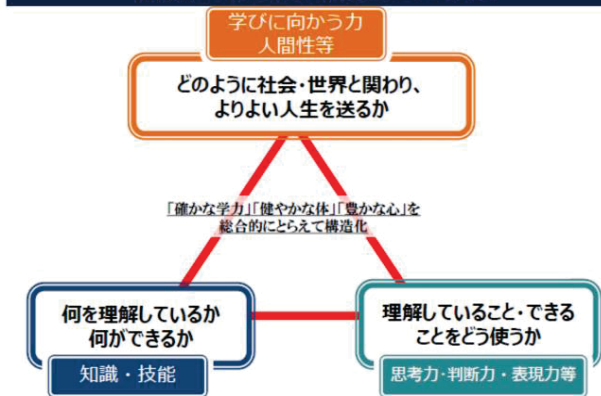
### カリキュラム・マネジメント 3つのポイント

- ①教科横断的な視点で内容を組織的に配列する。
- ②PDCAサイクルを回す。
- ③学校内外の資源を活用する。

## ◆事業の目的

カリキュラムの編成・実施と検証を主たる手段として、学校の課題を解決し、教育目標を達成するためのカリキュラム・マネジメントモデルを創る。

### 育成すべき資質・能力の三つの柱



## ◆実施内容

### カリキュラム・マネジメントの理解

- ◇次期学習指導要領総則の活用
- ◇文部科学省調査官等を招聘しての研修
- ◇カリキュラム・マネジメント先進校との情報交流

### カリキュラム・デザイン

- ◇教育目標・内容・方法を、カリキュラム(全体計画・年間指導計画・時間割・単元指導計画・週案等)として組織化

### カリキュラム・マネジメントの実施

- ◇カリキュラム・マネジメントが継続的に実施できるようにするための体制づくり

意識化のための研修

見える化の提案

カリキュラム作成支援

取組の中間検証

有効な手立ての共有化

取組のまとめ

連絡協議会

マネジメントモデルを発信

市教委の取組

達成すべきレベル

◆カリキュラム・マネジメントは、PDCAサイクルで見直しつつ改善していく必要がある。そこで、初年度はまず、今あるカリキュラム全般を見直し、マネジメントの視点で構造化する。(全国学力・学習状況調査学校質問紙結果も活用)